

大館高等学校(全日制課程)中期ビジョン(5カ年計画)

本校が目指す5年後の姿(具体的な目標)

①学校の現状や課題

<現状>

平成4年、大館南高校と大館東高校が統合し新設された学校である。平成24年創立20年目を迎えた。これまで、ボランティア活動(夏季は清掃、冬季は除雪、吹奏楽部の老人施設への慰問演奏会、生活科学科の保育園訪問等)や、2年生全員がインターンシップを経験し就労意識の高場に努めて、地域に開かれた学校を目指してきた。また、生活科学科では地域の協力を得ながら家庭クラブを中心とした研究活動に取り組んできており、地域と連携しながら各種イベントで発表し、話題を呼んでいる。地元の伝統菓子”かまぶく”や冠婚葬祭料理の掘り起こしや普及活動に精力的に取り組む、好評を得ている。生活科学科は、平成14年度より男女募集が始まり、平成17年度からは普通科・生活科学科のくくり募集を実施している。

<課題>

普通科においては、入学時に、中学校の延長という意識の生徒に対して将来に対しての目標を明確に持たせ、基礎学力を向上させる指導が求められている。生活科学科においては、2年生からクラス分けされているが、専門科目の履修単位数は25単位ぎりぎりであり、少しでも余裕を持たせ指導に当たりたいところである。

②学校を取り巻く将来の状況の予測

近年の少子化現象は年々その度合いを深め、学校だけの努力で解決できる域を超えた重大な問題となりつつある。平成28年前後には、長い伝統を持つ大館桂・大館工業・大館高校の三校が統合し、普通科・工業科・生活科学科の3科6クラス程度の中規模校が誕生する予定である。

このような状況下にあって、卒業者の進学、就職の状況を見ると、全体の5%から60%近くが県外を希望している。優秀な人材が県内にとどまり、地域の活性化の原動力となり、大きく貢献できる人材の育成をしていかなければならない。特に製造業の発展と新規企業誘致・開拓に期待するところが大きい。

③目指す方向性や学校像

生徒一人一人が自己目標を高く持ち、個性や感性を育みながら、自らが進む方向(入学したい上級学校・入社したい会社)に進めるよう意識を持たせる。

また、地域住民から愛され、信頼される学校、生徒の育成を目指す。そのためには、学校行事をとおして今以上に地域と連携し、地域にとってより身近な学校となるよういろいろな機会やイベントを活用しながら、教育活動の内容を発信していく。

P T Aや同窓会組織と連携し、活動内容と連携の内容を今以上に強化する。生徒達は地域行事に積極的に参加し、行事関係者と連携がとれているので今以上に地域の各イベントを盛り上げていく。

地域社会と一体感を持って貢献できる生徒の育成とキャリア教育、特に長期インターンシップを実践することで、生徒の人間性を認知してもらうよう学校として企業側に大いに働きかけていく。

④ 5年間で達成を目指す具体的目標

- 1 一年生終了までに進路目標を決定し、どんな資格を取得し進路に結びつけることができるか、主体的・積極的に努力目標を立てさせ、自立を目指す。
- 2 毎日の授業を大切にすると同時に、理解力を向上させ、発展的な学習に結びつけるため、家庭学習の定着(毎日学年プラス2時間)と小テストや課題テストを定期的に行う。
- 3 教員の指導力の向上を図るため、年間2回の職員全員参加の研究授業を実施し、反省会によりスキルアップを図り、よりよい授業の展開に努める。
- 4 全員が資格取得に挑戦し、漢字・英語・数学・簿記・ワープロ・情報処理・調理・洋裁・和裁・着付け・介護の資格取得に努め、進路に向けて付加価値をつける。
- 5 地域社会からのボランティア要請に積極的に応え、身近な学校、信頼される学校を目指す。
- 6 社会人として必要なルールやマナーを身につけさせるため、マナー講習会等を実施し定着させる。
- 7 社会人として必要なコミュニケーション能力を授業をとおして身につけさせる。
- 8 同窓会活動を活発にし、地域からの協力を得ながら進路決定にむけ意識の高揚を図る。